

新聞に親しみ、自分の興味や課題について必要な情報を得るために新聞を活用できる子どもを目指して。 ～6年生2学級の実践から～

長野県長野市立三輪小学校

深井和恵・松倉利和

## 1, 実践の概要

情報化社会の中に生きる子どもたち、しかし子どもたちは意外にその日の出来事・ニュースを知らない。社会科の授業や朝の学活などで、「最近のニュース、どんなことあった？」と問いかけると、政治・外交・事件・スポーツ・芸能、どんどん言葉が出てくる子どもと、「へえー、そんなことがあったんだ・・」とそれまで全く関心がなかつ子どもに分かれる。そして、これらの情報は多くがテレビ(音声)から得たものなのである。スポーツ欄に興味を持って見る子どもは良い方で、多くの子どもはテレビ欄と4コマまんがしか見ていない。『新聞を読んで』いる子どもは、6年生でも大変少ないというのが実態である。

活字離れが言われるこの頃だが、新聞はほとんどの家庭でとっている。「新聞」という身近な存在に親しみ、そこから情報を得ることで、世の中の出来事への関心を持ち、社会的な見方を少しでも広げて欲しいと考えた。一人では開くことのない新聞も、友達と一緒にいろいろなことを話題にしたり字を教え合ったりして読むことができるのではないか。毎日の様々な場面で必ず取り上げるようにしたら「見出し」だけでも関心を寄せられるのではないか。そんなことを願った。

そういう点からも教室に新聞が置けるということは大変有り難いことだった。

そこで、実践1年目の今年は、6年生2学級で、まずは「新聞を見る」というところからスタートし、主に次のような内容を実践した。

(1) 朝の会や帰りの会(学活)での「最近のニュース発表」「見出し比べ」

(2) 授業での活用・・国語科、社会科、家庭科、学級活動

新聞を教室に置くようになり、何もすることがないと「新聞を見てみようかな」という子どもの姿が見られるようになった。また、教師の側も今まで以上に新聞に関心を持つようになった。

新聞との関わりが生活の中で日常化していくことを目指し実践を重ねていった。

## 2, 新聞の配置場所・方法

実施時期 9月～3月

新聞購読方法 1ヶ月に2紙を平均として購読

6年生2学級の実践ということで、3～4日交代で教室に新聞を置き、保管した。2種類以上の新聞をとっているときは、全種類合わせて1つの学級に置くようにし、記事を比べたりできるようにした。自分の学級に新聞があるときは、子どもたちは自由に新聞を開いて見ることができるようになっていた。

### 3, 実践の内容(実践事例)

#### (1) 社会科:歴史学習に活用した実践例

##### <試みようとしたこと>

6年生の歴史学習では、戦争について学習する単元がある。

戦争についての学習は、様々な実践が報告されている。疎開の様子を調査したり、祖父母に戦時中の生活の様子を聞き取り調査をしたり、実際に戦時中の食生活を再現したりして食べてみるなど。その実践、ひとつひとつは、大変素晴らしいものであると思う。しかし、とても大切な視点が見過ごされているのではないかと思った。それは、「子どもたちがこれから生きていく社会において何が必要であるのか」という点である。これからの社会で一番大切になっていくこと。それは、「国際的な視野を持つこと」であると考えた。教育活動の一環として「国際理解教育」も掲げられていることから、大切な点であると考えた。また、全世界に関する情報は日々刻々と変化しているので、より新しい情報が必要になると考え、一番新しい情報を掲載している新聞記事が適当と考えた。

そこで、今回は「国際的な視野」を意識した歴史教育という点から、新聞記事を利用した実践をすることにした。

##### <授業の実際>

(1) 単元名 「自分で調べる戦争責任」

(2) 活用した新聞記事

中国の江沢民国家主席の来日に関係する平成10年11月末から12月上旬

(3) 授業の概要 (全4時間扱い)

① 前時までの子どもたちの戦争に対するとらえ

日清・日露戦争について、教科書や資料集を使って学習をしてきた。どちらの戦争も、日本が戦争で勝利を収め、多くの領土を獲得したことと、多くの犠牲者を出していることをとらえている。

② 単元の流れ

導入の2時間で、「中国の一番偉い人(主席)がなぜ、何のために、日本にきたのか」という問題を提示し、子どもたちが各自用意した新聞(江沢民国家主席が来日した新聞の日付をある程度指定した)を使って、好きな記事を切り抜き要約をさせた。

子どもたちが、迷っている感じがしたので、「日本が中国に対して何を反省し、何をおわびしたのか」と、問題を焦点化させてみた。すると、教室のあちらこちらから「あっここだ」「これでいいのかな?」という声があがってきた。その中で、多くの子どもたちが「共同宣言」(11月27日付)の記事の「中国国民に多大な災難と損害を与えた」の部分を引用していた。

次に、それらの記事を要約してさらに、自分の考えもまとめさせた。子どもたちは次のような考えをまとめた。

「戦争はいけないことだと思う。どっちも(日本、中国)本当にあやまる方がいいと思う。」

「この会談(江沢民国家主席と小渕首相)では、江主席を納得させない結果になってしまったと思う。日本はもう少しけじめをつけて中国側に謝ったほうがいいと思う。」

この発表のあと、「日本が中国に侵略したのはいつ頃だろうか。」という問題を2時間かけて調査した。

### ③まとめ

単元の終了後、ある子が次のような感想を書いている。

「昔の戦争のことを、今あやまって新聞に載るのだから、すごく悪いことなんだと思った。」  
このような感想をもてたということは、新聞記事を使うことで過去の出来事が今とつながっていることを感じ取ることができた結果だと思う。

内容としては小学生には難しく、また、とても大きすぎる問題であったと思う。戦争をめぐることは、様々な考えがあることは理解しているし、それぞれの考えを尊重したいと思う。だからこそ、教師側から押しつけるのではなく、自分の頭で考えて自分の考えを持つことが、子どもたちが現在よりも、複雑な国際社会の中で生きて行くためには必要になると思う。

過去と現在のつながりを持って歴史学習ができることと、国際社会の中で生きていく基礎を磨くための最新の情報がある、新聞記事は以上の二点でとても重要な意味を持つてくると考えられた。

### <授業を振り返って>

新聞記事の言葉が難しいことが小学生にとっては大変苦勞であった。いきなり、難しい内容を取り上げても、興味を持つことができない。そのためには、まず、新聞に掲載されている写真を切り抜いたり、野球やサッカーなど子どもたちにも分かり易い紙面から記事を切り抜きさせて、新聞に親しませていくことが大切であろう。(本実践の前にも、夏休みの宿題として、新聞に載っていて自分の興味を持った写真の切り抜きをさせて親しませていった。)

なお、平成11年1月4日の信濃毎日新聞に授業の様子を取材した記事が掲載された。

(授業者 : 現在 茅野市立泉野小学校勤務: 松倉利和)

## 自分で探る戦争責任

茅野市の小学生の社会科授業で、歴史科の先生が、中国の歴史を題材に、戦争責任をテーマに、新聞記事を使って、授業が行われていた。その様子について、信濃毎日新聞が、茅野市立泉野小学校を訪れ、授業の様子を取材した。記事は、1月4日の信濃毎日新聞に掲載された。

茅野市立泉野小学校の社会科授業の様子。先生が新聞記事を使って、戦争責任について説明している。

### 中国に何を反省し 何をわびましたか

江主席来日の記事をスクラップ

「中国に何を反省し何をわびましたか」という問いかけに、子どもたちは、新聞記事を読み、自分たちの考えを述べた。先生は、子どもたちの意見を聞き、戦争責任について説明した。

「中国は、戦争を始めた。日本は、戦争を止めた。中国は、戦争を始めた。日本は、戦争を止めた。中国は、戦争を始めた。日本は、戦争を止めた。」

「中国は、戦争を始めた。日本は、戦争を止めた。中国は、戦争を始めた。日本は、戦争を止めた。中国は、戦争を始めた。日本は、戦争を止めた。」



News Paper in Education  
**NIE**  
新聞に親しまれ

## (2) 社会科:地理・公民的学習に活用した実践例

### < 試みようとしたこと >

日本と諸外国との関係は毎日数多く報道されている。子どもたちも日本は世界の中の大切な一国であり、外国との関係は切っても切れないものだという認識を漠然とだが持つことができている。日本と外国との関係でどんなことが毎日話題になっているのか、外国で起きているどんな出来事に日本が関心を寄せているのか、それがよくわかるのが新聞である。国際社会に更に目を向けさせたいという願いは先の実践と同じだが、こちらは地理・公民的視点からこの実践を行った。

### < 授業の実際 >

(1) 単元名「日本に近い世界の国々」

(2) 活用した新聞記事

11月末～12月の信濃毎日新聞、各自が家から持ち寄った新聞

(3) 授業の概要(全4時間扱い)

①日本に近い国とは?と言う問題から、距離的に近い国、関係上つながりが深い国を(どういう点でつながりが深いかということも含め)考え合い、グループごとに調べたい国を決めだした。6グループが調べたい国ができるだけ重ならないように調整した。

②その国の特徴が分かるために何を調べたら良いか、グループごとに決め出した。

位置 人口 面積 気候の特徴 首都

有名な場所(地名) 政治について 日本との関係について・・・など

③新聞の中から自分たちが調べようとしている国に関する記事を見つけ、切り抜く。切り抜けたらどんなことが書いてあるのか概要をつかむ。(新聞活用場面)

\* 中国について調べていたグループが取り上げた記事

・「江沢民国家主席の来日にあたり、過去の戦争への歴史的認識を、小渕首相が口頭で謝罪を表明することになった」ことに関する記事

・台湾で行われた選挙を通して、中国と台湾の関係について1つの見方を示した記事。(子どもたちは記事を取り上げたが意味がよくつかめず、台湾という国について調べる必要性が生じた。)

\* ロシアについて調べていたグループが取り上げた記事

・エリツィン大統領の健康状態に関する記事 ・ロシアの経済状況に関する記事

④模造紙に調べた内容をまとめる。必要な新聞の切り抜きは、内容を要約したり記事へコメント(感想)をつけたりして貼る。

### < 授業を振り返って >

読めない字をとばしながら、どこの国のことが新聞に書かれているのかは、どうにかつかむことができた。しかし、字を調べて読めたとしても、今度は言葉の意味の壁にぶつかり、内容をつかむのは大変困難であった。教師がかみ砕いた説明はどうしても必要である。

子どもたちの活動は、新聞記事そのものを題材として考えたのではなく、新聞記事の中から必要な資料を見つけ、まとめ活動に取り上げ生かす形のものになったが、ほんの少しだけでも世界の動きに触れることができたことは、大変有意義だったと思われる。

(授業者: 深井和恵)

#### 4, 実践の感想と今後の課題

##### <実践の感想>

新聞購読を始めた頃は、正直言って、どうやって新聞を扱おうかと構えてしまい、なかなか有効に活用することができなかった。しかし、「子どもたちが新聞を見ることができるよう」を目標に様々な場面で新聞を使ってきた。

その結果、

- ・「最近のニュース発表」を続けて行っていったところ、今までテレビ欄と4コマ漫画しか見ていなかった子どもたちが、時々でも一面の記事に目を向けたり、各紙面の大きな見出しなどに関心を示すようになった。
- ・授業や学活、友達同士の中で話題になったこと(例えば商品券の配布<地域振興券のこと>やスペースシャトル、向井さんのこと、プロ野球のことなど)を新聞で確かめたり、自分の知識・情報を広げようとする子どもが出てきた。
- ・繰り返し新聞を扱う中で、新聞記事の段組に慣れ、正しく切り抜くことができるようになってきた。

などの変化が見られるようになり、新聞に触れてきたことは子どもたちにとって大変有意義だったと言える。また、新聞を扱うには教師も日常的に新聞を読まねばならず、それは日々多くの発見があり情報を得ることができたという点で、教師にとっても大変有意義であったと言える。

##### <今後の課題>

- ・NIEの実践は、今後の「総合的な学習」の視点として挙げられる「国際的な視野を広げる」「情報化社会へ対応する力を育てる」等の面を兼ね備えていると思われる。限られた時間の中で、どんな内容を取り上げて授業を行うか、様々な角度からの実践を積み重ねていきたい。
- ・児童の卒業により、実践2年目の今年には対象学級が変わる。基礎的な事柄の繰り返しはやむを得ないが、時間を見出し、できるだけタイムリーな記事を扱っていけるようにしたい。
- ・学校内の掲示や他の先生方への情報提供の場も工夫していけたらと思う。